



△「危険物取扱者保安講習会」のご案内

危険物取扱者の危険物に対する取扱いや法令の内容について正しい理解を深めてもらい、危険物による災害を未然に防止するため、次の要領により昭和五十五年危険物取扱者講習会を実施します。

○日時・会場

昭和五十六年二月十二日～二十日
入吉市(十二日)、玉名市(十三日)、
本渡市(十六日)、水俣市(十八日)、
熊本市(十九日)、八代市(二十日)の
県下六会場

○対象者

現に危険物の取扱い作業に従事している危険物取扱者で、昭和五十二年二月以前に、免状取得もしくは前回の保安講習会を受講された方は、受講義務がありません。受講義務のない危険物取扱者でも希望される場合は受講するこ

とができます。

○講習科目・時間

講習科目 危険物関係法令、危険物の火災予防について
時間 午前十時から午後四時まで

○受付期間

昭和五十六年一月二十一日から講習会前日まで

○受講申込書の請求

昭和五十六年一月中旬以降に
〒八六二 熊本市水前寺六丁目十八番
一号

熊本県総務部防災消防課
または、各消防本部へ請求してください。

郵便で請求される場合は「危険物取扱者保安講習会申込書請求」と朱書きし、五十円切手を同封して請求してください。

詳しいことは、県防災消防課(電話〇九六三―八三―一五〇四)へおたずねください。(防災消防課)

△教育モニター募集

県では文部省教育モニターを募集します。

教育について深く関心をお持ちの方はふるってご応募ください。

1 主な仕事

文部省からお送りする文書にご意見を記入し、回答していただきます。

2 募集人員

熊本県 十名程度(依頼期間二年)

3 応募資格

年齢満二十歳以上の日本国民。ただし、次の方は応募できません。

(1) 国会議員及び地方公共団体の議会の議員

(2) 常勤の公務員(ただし、校長及び教員は応募できます。)

(3) 行政相談員

(4) かつて教育モニターであった者

4 受付期間

昭和五十六年二月一日～三月十日(郵送での申し込みは、三月十日まで必着のこと。)

5 申込先

〒八六二 熊本市水前寺六丁目一八一

熊本県教育庁総務課

1 申込み方法

「教育モニター申込書」は直接「申込先」で受け取るか、あて先明記の返信用封筒(六十円切手貼付)を同封して請求してください。

教育モニター募集について、くわしいことは、県教育庁総務課、〒八六二 熊本市水前寺六丁目十八番(電話〇九六三―八三―一一一番 内線二六六二)へお問い合わせください。(教育庁総務課)

△冬山の遭難をなく

しましよ

昨シーズン(昭和五十四年十二月～昭和五十五年二月)中、全国では、六十七件の遭難事故が発生し、十八人の死者をだしています。

遭難事故は、天候を無視しての入山、技術未熟、不完全な装備による強行登山

(県警本部)

など、無計画・無謀な登山が原因となり

ます。

冬山の特性をよく理解し、豊富な経験と優れた技術・指導力をもつリーダーのもとで、慎重に計画をたてて実行することが大切です。

楽しく安全な登山をするために、必ず次のような準備と計画をしましょう。

○登山計画書は必ず提出してください

登山計画は、家族や勤務先などに詳しく知らせた上、登山計画書を必ず登山地の最寄りの警察や、山岳連盟に提出しましょう。

○天気予報に注意しましょう

冬山では、天候が激しく変わります。朝から晴れていても、二・三時間後は吹雪が、吹き荒れるということはめずらしくありません。天気予報など十分に注意して行動してください。

○単独登山はやめましょう

冬山の登山は特に厳しい条件のなかでの行動が要求されるところから単独登山の場合は、ちょっとした事故でも死亡事故につながることも多いのです。必ず、山岳団体に加入し、二人以上のグループで行動しましょう。

○装備・食糧などの準備は十分です

天候の変化など、あらゆる条件を考えて、装備品の点検を行い、非常食の準備なども忘れないようにしましょう

熊本県では、昨シーズン中は、幸いにも、遭難事故はありませんでした。皆さんの正しい登山マナーで、今後とも無事故を続けましょう。



熊本みたまま



ラザルデン・D・パーカー

私は、熊本市に滞在していて、日本人は先進諸国と競う精神を持っており、この精神がたゆまない経済成長をもたらしたものだということが判りました。当地の多くの日本人の莫大な力と一生懸命に働くという勤勉さが、彼等の美しい国を発展させているのです。

熊本市では多くの友人ができて日本人について、特に彼等の食物、習慣、風習についてかなり多くのことを知り、又女性のこともある程度承知いたしております。

日本人は、マレーシア人の私には非常に良く、友好的で親切です。初めて日本人からご馳走をいただきました。私を訪

問する時はいつでも彼等は何かお土産を持ってきてくれるし、いつもどこへでも連れていってくれますが、特に飲屋に行きます。お互いに意志の疎通を図ることはむずかしいのですが、彼等は私に理解させようと一生懸命です。

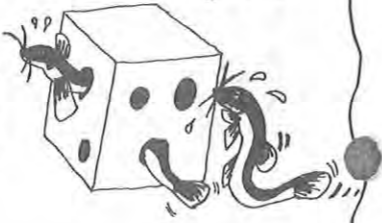
日本人の習慣の中で、特に私が高く評価しているのは、彼等がお互いに尊敬と敬意を表していること、丁寧であるということです。私の心を特に引きつけるものは、彼等が丁寧な言葉でお互いに話し合っている時で、それを見ていると私には殆んどの方が十分な教育を受けており、彼等の習慣のために、日本人が丁寧なのだと思えます。

熊本の女性は外国人に対しては恥しがりやで、時々私が女友達をつくらうとしてもむずかしいことに気がきました。私には、何故彼等が恥しがりやなのか理解できません。外国人と友達にならなければ外国のことはよく判らないでしょう。当地の食物について、日本には色んな種類の食物があって私は大変好きです。私に大変珍しい食物は魚の刺身です。初めは生魚なので臭いがすると思っていましたが、そうではなく、ビールを飲みながら食べると大変おいしいのです。

以上のことが、私が熊本市に滞在中に知った若干のコメントです。私に大変よくしてくる友達の方々と当地の滞在を楽しんでおります。

(マレーシア出身)

民話



「どじょうばかり」

上野 晃

今日は、彦一どんの、こすっぱのはなしばい。

ある時、村ん若いもんが集まって、「ひかり」ばしゅうかい。ちゅうて、どじょう捕りにいかしたげなたい。なに？ひかりて、何のこつかて。ひかりちゅうとは、今の錢ばしゅうおうて、酒ばのむとたい。昔しや、雨の降ったり、よけだたりすつと、村の若きやもんの集って、よう飲み食いばしなはったもんだい。ひかりちゅうとは、もともと、錢のこつばいうたつげなたい。錢はひかっとるけん、そぎやんいうたつげなたい。村ん若きやもんな、ひかりばするていうて、どじょうばしゅうかいしたばつてん、彦一あ、そるば黙って見とって、どじょう捕りにや、いっしよに連れ立って行かんだつげな。どじょうのぐっさり取れたけん、太かなべん中きや入れ

て、煮とった所に、彦一がやって来て、「おれも、ひかり入れてくれ。おら、どじょう捕りいかなだつたけん、とうふば一丁出すけん。」て、いうたげな。若きやもんな、どじょうばつかるじゃ、げいのなかけん、「よかたい。とうふ二丁出すなら、かちゅうたい。」て、いうて、彦一もどじょうばかりにかてらしたげな。

彦一がもって来たとうふは、なべの中に入ると、どじょうどま、下ん方からだんだん、たぎってくるけん、苦しませれにとふの中さん、くじりこんでしもうたげな。そんな時、彦一の嫁が走りこんできて、「彦一ちゃん。大ごつのできたばい。はよきてくだはり。かあちゃん病気で、うったわさした。」ていうたげな。彦一「そりや、大ごつばい。そんなら、おら、こつで失礼するけん。おるがであた、とうふはもって帰るけん。あとは、よろしゅうたのむばい。」て、いうて、とうふば、なべん中からつかみ取って、ちんちら舞あして、きやあもどつたげな。

なべん中あ入つとつたどじょうは、一匹も残らんごつととうふの中へ、くじりこんでしもうたつたけん、後に残ったた、お湯ばつかりだつたげな。いっときして、若きあもんな「こらあ、彦一から、だまされたばい。」て、気づいたばつてん、もう、どぎやんしよんなかつたげな。